

ならエコファーマー通信

奈良県エコファーマー連絡会

第11号

奈良県エコファーマー連絡会 第6回通常総会を開催



奈良県エコファーマー連絡会 総会

平成24年11月12日(月)、橿原市の農業交流館にて、奈良県エコファーマー連絡会第6回通常総会を開催しました。

平成23年度の事業報告後、平成24年度の事業計画について協議を行い、下記の事業が承認されました。

総会終了後、環境保全型農業推進講演会を開催、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター 横山 和成 上席研究員より、「土の豊かさをはかる～土壌微生物多様性・活性値による土壌の健康

管理～」と題して、土壌中の微生物の多様性を評価する手法と、土壌微生物の多様性・活性が高い土壌は連作障害が発生しにくく、土壌消毒剤や化学肥料の施用により土壌微生物多様性・活性値が低下する傾向がみられる等の研究結果、有機農業実践農家における分析事例についてご講演いただきました。



環境保全型農業推進講演会 講師：横山和成先生(右上)

続いて、農業総合センター 環境保全チーム 西川主任研究員より、「周辺環境に配慮した農薬散布」と題して、隣接する農作物への農薬の飛散や周辺環境への負荷を低減するための農薬の選択と散布方法のポイントについて報告いただきました。

当日欠席された方で、総会・講演会資料を希望される場合は事務局までご連絡下さい。



研究報告 西川主任研究員

平成24年度事業計画

(平成24年10月～平成25年9月)

■ 総会・役員会の開催

■ 環境保全型農業技術の研修、情報提供

- (1) 環境保全型農業技術研修会の開催 (11/12、2月)
- (2) エコファーマー技術交流会の開催 (1月)
- (3) ならエコファーマー通信の発行 (2回)

■ エコファーマーの取組、農産物のPR

- (1) エコファーマー活動PRパネルの作成と貸出
- (2) 奈良まほろば市におけるPR (11/3～4)
- (3) 消費者交流会(エコファーマー体験ツアー)の開催 (11/23、5月)

消費者交流会「エコファーマー体験ツアー」を開催しました

平成24年9月8日(土)、宇陀市の(有)類農園を会場に消費者交流会を開催、13名の消費者にご参加いただきました。

はじめに宇陀市農林会館において、開会挨拶、エコファーマー認定制度の説明後、出席した6名のエコファーマーが取組のPRを行いました。



開会挨拶

続いて、マイクロバスで今回の体験受け入れ先である(有)類農園のビニールハウスに移動、茎ブロッコリーの栽培方法や黒マルチによる雑草抑制の効果、定植作業の手順について説明を受けた後、実際に定植作業の体験を行いました。黒マルチを敷き詰めた暑いビニールハウスの中、汗をぬぐいながら力をあわせて、ハウス1棟分の茎ブロッコリーを植えました。



茎ブロッコリーの定植体験

作業後は、フェロモントラップや太陽熱消毒など、(有)類農園で実践されている環境にやさしい農業の様々な技術を見学していただきました。

続いて露地栽培ほ場へ移動し、若どりの宇陀金ごぼうの収穫を体験いただきました。



ごぼうの収穫体験

滅多に体験することができない宇陀金ごぼうの収穫作業を通じて、参加者は土との触れあいを楽しまれていました。

収穫体験後は、(有)類農園の取組について説明を受けながら、メロンを試食させていただきました。

今後も各地域での開催を計画していますので、交流会の開催に協力いただける方は事務局までご連絡下さい。



(有)類農園概要説明

農産物直売

参加者の声 (アンケートから)

- 茎ブロッコリーの定植体験では、ハウスの中が暑くて早く終わりがたかったですが、農家さんの大変さが分かりました。定植した茎ブロッコリーの収穫もしてみたいです。お世話になりありがとうございました。
- 会社を退職して、農業について何も分からない中で今回の体験ツアーに参加。農業が身近に思えました。これから少しずつでも私なりに勉強していこうと思いました。また参加させてもらえたらうれしいです。
- もう少し時間をとって、よい土の作り方を教えてほしかった。

農産物販売・パネル展示・クイズでPR ～奈良まほろば市～

平成24年11月3日(祝・土)～4日(日)、橿原市の橿原公苑で「奈良まほろば市」が開催され、約61,000人の来場者で賑わいました。エコファーマーの取組をPRするため、本年度も県エコファーマー連絡会より出展を行いました。

1日目は、会員が生産した農産物(米、野菜、柿・梨、茶等)の販売を行い、消費者に栽培方法や農産物の特徴を丁寧に説明し、エコファーマーのPRに努めました。

2日目は、エコファーマーの技術や連絡会活動を紹介するパネル展示と環境にやさしい農業クイズを実施し、楽しみながらエコファーマーに親しんでいただきました。

1日目
(11/3)
農産物販売



2日目
(11/4)
PRパネル展示・
環境にやさしい
農業クイズ

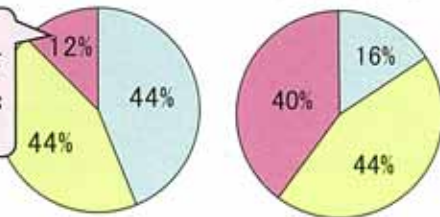


クイズ参加者へのミニアンケート結果

「エコファーマー」・「有機農業」についてこれまで知っていましたか？
(回答者数 133名)

「エコファーマー」 「有機農業」

前回の平成22年は「言葉も意味も知っていた」が4%でした。少しずつPR効果があらわれています！



□ 聞いたことがなかった □ 聞いたことはあったが詳しく知らなかった □ 言葉も意味も知っていた

パネルやのぼり旗などのPRグッズを貸し出しています



あなたの地域のイベントでもエコファーマーのPRをしませんか？PRグッズの貸出については事務局までお問い合わせください。

奈良県持続的農業導入指針の改正について

平成24年3月28日および8月21日付けで、エコファーマー計画の作成に際する県の指針である「奈良県持続的農業導入指針」を改正しました。

改正点は、「れんこん」、薬用作物の「とうき」、「みしまさいこ」、「しゃくやく(薬用)」の追加と特別栽培農産物に係る表示ガイドラインの改正に伴う「かき(渋)」の化学農薬施用回数の目標のめやすの変更です。

各品目の指針の内容は、奈良県のホームページをご覧ください。県農業水産振興課又は各農林振興事務所におたずねください。(県ホームページ http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-16238.htm) また、これらの品目についての認定や、指針が策定されていない品目での認定を希望される場合は、各農林振興事務所にご相談ください。

**地域でがんばる！
エコファーマー**

多田 一吉 さん 認定作物：梨（認定番号 726 号）
（五條市大野新田町200 電話 0747-22-4012）

多田さんは、五條市の北部、阿太峰高原の一角でご夫婦と息子さんの3人で梨を栽培されています。

「環境との共存無くしては、農業に未来は無いのではないか。」という強い思いから、環境保全型農業による梨づくりに取り組んでおられます。

バーク堆肥などによる土づくりを行い、有機配合肥料を使用し化学肥料を低減、除草剤は一切使用せず、ペットボトルで蛾とり罠を約200個作り圃地に設置する工夫などにより、化学合成農薬の低減に成功されています。

また、できるだけ樹上で熟してから収穫した完熟の梨を提供されており、糖度が高く、大きな梨は消費者に好評です。

「減農薬と減化学肥料栽培に積極的に取り組んで、安全・安心の梨を一生懸命に育てています。よろしくお願ひします。」と消費者へのメッセージをいただきました。



お揃いの震災復興Tシャツで農作業されています！

TOPICS 農薬ラベルを見るとき の 注意 点

～間違いやすい「適用作物名」にご注意～

環境保全型農業推進講演会の研究報告より、トピックスをお伝えします。

農薬のラベルには、使用できる適用作物名が書かれています。最近では、消費者ニーズに対応して、作物の形状や栽培形態の異なる農作物が増えており、思い込みで判断すると適用作物を誤る場合があります。例えば「トマト」と「ミニトマト」は農薬登録上、別の適用作物となります。

間違いやすいものを表にまとめましたのでご注意ください、よくわからない場合は、農林振興事務所、農業総合センター、病害虫防除所にお問い合わせください。

間違いやすい作物（例）

①・②・③は、それぞれ農薬登録上、別の作物として扱われます。

①	②	③
トマト	ミニトマト	
だいこん	はつかだいこん	
ピーマン	とうがらし	ししとう
ねぎ	わけぎ	あさつき
ブロッコリー	茎ブロッコリー	
いんげんまめ (子実)	さやいんげん (豆類未成熟)	
だいず(子実)	えだまめ (豆類未成熟)	
とうもろこし (子実)	未成熟とうもろこし (スイートコーン)	ヤングコーン

編集後記



今回の「地域でがんばる！エコファーマー」は、連絡会役員の梨子本巨希さんに取材いただきました。このコーナーへの掲載のご希望、ご意見や記事の投稿をお待ちしています。連絡会活動へのご意見もお寄せ下さい。